

佳作

ヒーローになることを目指して

新潟県長岡市立越路中学校

3年 関 ひかり

ある日、いつものように母とスーパーへ買い物に行った。母に頼まれ、商品を探しているとき、なかなか見つけることができずにいたため、店員さんに聞いてみることにした。

「すみません。」

話しかけたが反応がない。「聞こえていないかな」と思い、もう一度話しかけてみる。

「すみません。」

やはり返事はない。私は疑問に思い、肩をトントンとたたいてみた。そのとき店員さんは驚くように私を見た。返ってきた答えは、紙に書かれた「耳が聞こえづらい」という文字とジェスチャー。私は衝撃を受けるとともに、「どうやって言葉を伝えようか」と悩んだ。すると、店員さんがメモ帳とペンを貸してくれた。なんとか筆談で伝えることができ、無事に商品を見つけたことができた。お礼を言いたかったので、メモ帳に

『『ありがとう』の手話はどうやるのですか。』と書いてみせると、その店員さんは笑顔で、「ありがとう」の手話をして見せてくれた。それを真似して私もやってみたら、「どういたしまして」と手話が返ってきてとてもほっこりとした。

この数分間の出来事により、何か人の役に立つ仕事がしたいと強く思った。家に帰り、このことを母に話した。

「困っている人を助けられるような、人の役に立つ仕事ってある？」

母はいつもより優しい声で

「看護師さんがいいと思うよ。ひかりは優しいから向いてると思う。」

と言った。

この言葉が、私の夢をより明確にしてくれた。では、看護師になるにはどうしたらよいか。

一つ目は進路だ。看護師になるには高校を卒業し、看護を学べる大学、短大、もしくは専門学校で学び、看護師の国家試験に合格しなければならない。だから、今からしっかりと数年後の自分を見据えて、約半年後の高校入試に備えて全力で勉学に励みたい。

二つ目は、たくさんの人と会話することだ。上級学校訪問で看護学校を訪れた際に、こんなお話を聞いた。

「たくさんの人と話すことで、いろいろな考えをもつ人がいることが分かります。それを学んでおくことで、看護師になったときに『この患者さんはどのような治療を望んでいるのか』を理解し、提案することができるのです。」これを聞いて私はたくさんの人と話す、しかも思いやりをもって話すことの積み重ねが、いつか患者さんの心の支えになる看護師になるということにつながると考えた。そこでこれからの学校生活ではこれらのことを心がけていきたい。まず自分とは性格が違う人や苦手な人との関わりを増やすことだ。私は人見知りな部分があり、自分とは性格が違うと

「この人と話すのは無理だ。」

と勝手に思い込んでいた。だが、これからは自分の思い込みを捨て、自分から話しかけに行くようにしたい。

次に親しい友人と会話をするときだ。親しくなってくると荒い言葉遣いになってしまいがちだ。このままでは自分が気づかぬうちに相手を傷つけてしまうかもしれない。だから『親しき仲にも礼儀あり』というように思いやりをもった言葉遣いを心がけたい。

三つ目は日常の体験を大切にすることだ。どんなところで将来の夢が見つかるか、今勉強している内容がどんなときに生かされるか、それは誰にもわからない。私の夢が見つかったのもある日突然だった。だからもし、今勉強していることが無駄だと感じている人がいるなら、私はこの経験を聞かせたいと思う。

そして、最後は自分に負けないことだ。私は人の意見に左右されやすく、
「あなたには無理だよ。」

「現実を見な。」

など、マイナスな言葉を聞いてしまうと自暴自棄になってしまい、諦めがちだ。しかし、これからはそんな言葉を聞いても努力を続け、自分の持っているエネルギーを出し、みんなを助けられるヒーローのような看護師を目指したい。